第 14 回土木学会構造物荷重指針連合小委員会　　2005.09.06

今後の作業の進め方について

（中大・佐藤）

◎ 構造工学委員会内での常置化の可能性について
- →古田委員長　（構造工学・副委員長）
- 11 月にアクションを起すか　→ 5月？

◎ 第 I 編・付録（HP から）

（担当者、敬称略）

章（節）	執筆担当者	頁
A-I. 1　信頼性理論に基づく作用組み合わせ	白木	A-I-1
A-I. 2　荷重のばらつきや不確定性と設計用荷重（特性値と部分係数）	鈴木	A-I-5
A-I. 3　統計的手法による作用モデルの構築	本城	A-I-12
A-I. 4　偶発作用の考え方（野津提案）	仮 野津	A-I-18
A-I. 5　国際設計指針・基準等における荷重・作用の現状	佐藤	A-I-？
A-I. 6　各作用のリンク先，データベース等	戸田	A-I-？
A-I. 7　「性能設計における作用・環境的影響指針」補足	佐藤	A-I-？

A-I. 2 については前回に続き．A-I. 1, 3 と並んで，「性能設計を前提として」「この指針の『作用原論』をご理解いただいて」「データが利用可能な状況にあって」，そこで変動作用に対する扱いを考えていただく立場の方への，「信頼性グループからの教科書的ガイド」という位置付けである．

偶発作用→本日本城資料，佐藤メモ(一部).
- 偶発作用として想定されるものは多岐にわたる．
- 第 2 編に独立した章を設けるのは難しいようである．
- 地震や衝突などで「○○の場合は偶発作用として扱う」と記述される場合があるので，その受け皿をある程度きっちりさせる必要はあると思われる．
- もう少し「可能性を網羅し」「構造物に『原因と不釣合いな結果』を招かないためのロバストネスを求める」ことも書いた方がよいか．（→偶発作用 WG を短期で作るか？）

「補足」→本日資料；「従来型の設計基準で『荷重』としてきたものとのすり合わせ」あるいは「便法としての荷重とのすり合わせ」など，読者向けの解説．

◎第 II 編　各種作用（HP から）

章（節）	執筆担当者	頁
1. 基本方針	佐藤	II-1
2. 死(固定)作用	佐藤	II-10
3. 走行(活)荷重 作用	白木、佐藤、川谷、金、齊藤、横山	II-20
4. 風作用	石原、勝地、川谷、中山、横山	II-30
5. 地震作用	澤田、中村、秋山、北原、野津、長尾、梶田	II-40

津波は？

6. 雪作用	斎藤	Ⅱ-50
7. 温度作用	藤田，佐藤	Ⅱ-60
8. 波浪および流体による作用	長尾 （→ 合田，福岡）	Ⅱ-70
9. 地盤作用	鈴木、塚本	Ⅱ-80
10. 衝撃作用 *New !*	桝谷、香月、河西、梶田	Ⅱ-90
11. 環境作用（環境的影響）	下村、松島、三島	Ⅱ-99

この次に「降雨強度(仮)」を追加→本日資料 ここに入れる。
さらに，「今後検討すべき各種作用(仮)」という章を設けたい．「構造設計者の親切のため」あらゆる「構造物の安全性，耐久性，その他の要求性能を脅かす負荷」は，出来るだけ網羅して示すスタンスをとりたい．項目のリストアップだけでもよい．上の章立て案でも，そちらに移すものがあってもよい．

例えば「9．地盤作用」においては，主働土圧などは一般的に作用のイメージで書きやすいかもしれないが，反作用一般（反力，支持力，受働土圧など）や圧密，地盤沈下などは，書きにくいかもしれない．構造屋から見れば立派な「構造物への作用」でも地盤屋さんからみると，構造物からの作用を受けての応答・作用効果かも知れない．短期作用（クレーン荷重などの施工時荷重など）も，必要としているところには纏められているが，こういう枠組みだと入りにくい．委員会で「思い浮かんだことを発言する」に留めず，何らかの一言メモを幹事長宛送付！

アンケートで意見を集めたい